

第4回自然観察会 星空観察会を行いました



望遠鏡をのぞく前、美しく迫力のある映像を見、口マンあふれる星と星座の世界について講師のお話しを聞く。

あいにくの曇り空、
月が隠れている間に
天体望遠鏡の仕組み
について話を聞く子供たち。



10月23日(金)と30日(金)の二日にわたり花水木天文台(田中)において、第4回自然観察会☆星空観察会☆が開催されました。講師に上條補壹氏(東亞天文学会会員)をお迎えし、親子等両日合わせて35名の参加者で秋の星空を観察しました。

スクリーンでプラネタリウムソフトを上映し、実際に天体望遠鏡を見ながら説明をしてもらい、双眼鏡でも観察しました。23日は残念ながら雲が厚く月しか見ることができませんでした

たが、30日はきれいな星空でアンドロメダ銀河やアルマク(二重星)などを天体望遠鏡で見ました。子供たちも、「星のことがちょっとわかっておもしろかった」「とても大きな望遠鏡で見ることができてよかったです」と言っていました。普段の生活の中で夜空を見上げる機会はなかなかありませんが、たまにはきれいな星空を眺めてみませんか?

(自然環境部会)

～連載～ 「若槻自然遺産」登録候補の紹介

(其の3) 「若槻13湖」…三登山山麓の溜池群

三登山山麓の若槻地区には以下の溜池が今も恵みの水を蓄えて季節の彩りを映しています。

古池、弁天池、新池、田子池、つつみ池、田中の弁天池、鐘撞堂池、大池、ひょうたん池、山の神池、湯の入池、堂沢の池、徳間池、の計13の池です。(その他に五郎池、原ノ池など数か所の溜池がありました)が、すでに埋められてしまいました。

若槻地区は北西に三登山・髻山の山波が屏風のようにそり立ち、急峻な山肌に深く刻み込まれた幾筋もの沢が若槻地区の傾斜地を流れ下っています。これらの川は短く急峻なため決して多くない水量と早い流れは、麓の田畠を安定して潤すには不利な環境にあります。

先人たちはこの厳しい環境に立ち向かい、自然の営みを上手に取り入れて自然の恵みの水を効果的に活用し、「溜池」という灌漑施設を生みだし、村々の暮らしを支えてきました。

その結果、若槻地域には嘗て20以上の溜池がありました。中でも田子池は周囲1.8キロ、面積10.4haと最大です。池の利用は昔から若槻地区内ののみならず、三才、古里地域を含めて広い地域の田畠を潤して人々の命を支えてきました。昭和30年代前半では冬、湖上でスケート大会が催されるなど冬季スポーツのメッカとして賑わっていました。今は多くの水鳥が羽を休めている姿に心が和みます。



◆田子池
旧水道道路から志賀の山波を背景に何処か懐かしい田園風景の中にポツカリと田子池の湖面が天を映して輝いている。

山ノ神池
深い谷底にひっそりと水をたえた小さな池は東山魁夷の世界を連想させる。
若槻13湖の中で最も美しい池である。

又、田中の弁天池と東条の湯の入池(ヨネリ池)のほとりには嘗て温泉場が在って、大いに賑っていたことが知られています。景観や雰囲気的には神秘的な山の神池、池越しに三登山を仰ぎ見る鐘撞堂池が双璧でしょう。

しかし、戦後、特に昭和50年、60年代の高度成長経済からバブル期にかけて日本全土を巻き込んで急速に進んだ都市化の波が、いくつかの溜池を消滅させてしまい、また現存する溜池も昔ほどに利用されているわけではありません。先人の苦労、当時の暮らしまで忘れられようとしています。

若槻地区の自然環境とこの地域に住んでいる私たちの暮らしがどのように繋がっているのか想いをめぐらしたことがありますか。

皆さん「若槻はいいところだ、住んでてよかったです」と一口に言いますが、その背景、先人たちの苦労が在っての今であることを忘れていませんか。

溜池はまさに「私たちの今」を築き、支えている土台を具体的に見て触れる事が出来る貴重な遺産なのです。これらの溜池群を「若槻13湖」と名付けて自然遺産に登録することを提案します。

是非近くの溜池を訪れて、先人達が汗を流して築き守ってきた溜池と水のありがたさに想いを向けてください。

(文責・大村道雄)

